

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591600089		
法人名	医療法人社団 早川内科医院		
事業所名	グループホームなみおと		
所在地	山口県山陽小野田市大字小野田1147-13		
自己評価作成日	令和2年12月20日	評価結果市町受理日	令和3年4月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
聞き取り調査実施日	令和3年1月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍 利用者・家族様の面会 外出の機会が少なくなりました。なみおとグループホームは 医療法人のため 院長より感染のリスク 対応策など常に指示があり 職員全員で 感染しないよう努めています。そのような状況の中でも 利用者様にストレスを与えないように 三密をさけ きららビーチ散歩や 近隣のコスモスを観賞 竜王山までドライブなどにて四季を感じて頂けるよう努めています。 また ご家族様にも ご本人の様子をお伝えできるように 電話で会話して頂いたり 会話が困難な方などおられるために こまめに写真を撮り 毎月 なみおとだよりを担当職員が手書きで いろいろな場面の写真を載せて日々の様子をお伝えしています。重度化された利用者の方もそうでない方も 皆様同じように 午前・午後のレクリエーション 体操にも参加して頂き 常に職員丁寧な言葉声かけし、マスク着用している中でも目線を合わせて笑顔で対応し 安心して 穏やかに楽しく過ごして頂けるよう努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議の地域メンバーを拡充され、会議が開催できない時も、資料を送付されて電話で意見を聞かれ、災害対策マニュアルの改善を図っておられるなど、地域との協力関係を築いておられます。「なみおとレク委員会」で話し合われ、毎月、レクカレンダーを作成しておられます。三密を避け、近くの駅や地域の花壇などに、車椅子の利用者も散歩に出かける「お散歩週間」、日常の中での変化を楽しむ「入浴週間」、各種のおやつづくり、映画鑑賞など、ボランティアや地域の人の来訪が制限される中で、利用者への楽しみごとをつくる工夫をしておられます。ご家族に利用者の様子を伝えるため、こまめに写真を撮られて、事業所だより等に掲載されたり、その人毎のアルバムにまとめられて居室に置かれ、思い出づくりや話題づくりに活用されています。職員は、年度や月ごとの目標、研修などを通して、認知症の理解やケアの技術の向上に取組まれています。マスク越しでも笑顔が伝わるようなアイコンタクトで利用者に接しておられ、職員間も含めて、丁寧な言葉づかいで相手を尊重する話しかけをされ、利用者が安心して穏やかに、楽しい日々を過ごせるよう支援に取組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は全員で考えた目標で各部署・事務所に提示している。月に1度の職員会議で 理念に基づく検討会を開催している	地域密着型サービスの意義をふまえた理念を事業所内に掲示し、全職員が暗記している。月に1度の職員会議で話し合い、理念を確認し、共有して、利用者を中心として地域と関わりながら、利用者の思いを大切に、笑顔で過ごせる安心・安全のサービスを心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。毎年 祭りや 地域の会議 なみおとでの行事ボランティア 町内の方とのお茶会など行っていたが 今年 はコロナ禍 行事は行なえていない	事業所は、自治会の1つの班として班長を出し、地域活動に加わっている。この1年はコロナ禍で、自治会の行事や拠点の「なみおと秋祭り」は中止となったが、校区主催の見守り声かけ訓練には、市担当課の協力の下、管理者がリーダーとなって職員と共に参加協力している。感染防止対策として、地域の人の寄り合いの場として開催していた2ヶ月に1回の喫茶の日や、ボランティアの来訪は中止している。地元のスーパーやパン屋での買い物、散歩時に地元の人と挨拶を交わしている他、花や野菜の差し入れがあるなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会長・民生委員・利用者様のご家族などに認知症の事を理解していただく為、運営推進委員会に何度か参加していただいた。11月には見守り声かけ訓練を本山自治会市役所 他の介護事業所と共に行った		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員会議で評価の意義を説明している。自己評価も職員全員で検討・話し合いをして、常に利用者様一人一人の思いをくみ取った介護が出来るように努めている。	管理者が職員会議で評価の意義を説明し、全職員に評価のための書類を回覧して、ユニット毎に話し合い、意見を集約して管理者がまとめている。職員は、自己評価の取り組みを通して項目毎の意味を理解し、理念や日々のケアの振り返りの機会として、個別ケアの改善に取り組んでいる。前回の外部評価結果を受けて、新たに運営推進会議のメンバーに派出所長や地域交流館長、小学校教頭を迎えるなど、評価を活かして改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度は数回しか地域の方 有識者との運営推進会議 が出来なかったが 集まらない月でも 議題や 研修レポート なみおと 状況報告など送付している	新たに派出所長や地域交流館長、小学校教頭をメンバーに加え、会議は2ヶ月に1回開催している。利用者の状況報告と行事報告、ヒヤリハット、事故報告、外部評価結果報告等を行い、介護技術や認知症についての情報提供などを行っている。事業所の取り組みを写真付きのなみおと新聞を活用して伝えている。見守り声かけ訓練、防災避難訓練などについて話し合い、防災マニュアルの改善や地域との連絡網の整備につないでいる。市の指導により会議を中止した場合は、近況報告や研修の資料を送付して、電話で意見を聞いている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市からの情報メールを確認し不明な点があれば、電話または市役所に行き、相談・指導を受けている。	市担当者とは、運営推進会議時や、直接出向いたり、電話、メールで情報交換を行い、相談して助言を得るなど協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、資料などで情報交換し、連携している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を立ち上げ 委員はミーティングで身体拘束の研修(事例など上げ)を行い抑制・身体拘束をしないケアを話し合っている	身体拘束廃止に関する指針があり、内部研修や2ヶ月に1回の身体拘束委員会で学んで、全職員が理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについて気になることがあれば管理者が指導している。玄関の施錠はしておらず、利用者が外に出たいと察知した時には、職員が一緒に出かけている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会と同様に 虐待防止についてミーティングで研修を行い、どのような場面でも虐待があってはならないことを理解し意識向上に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様のご家族の関係 ご本人への想いなど常に家族と話し合い納得して頂き 実際に成年後見制度を活用した利用者様がおられる		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の時、内容や重要事項などの説明は資料に基づき分かりやすい言葉で説明している。改正時にも全家族に理解していただけるよう説明行ない 書面にて捺印承諾して頂いている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来苑された時は利用者様の近況を報告し、要望がないか伺っている。利用者様の担当が手書きの手紙と、行事の様子を載せている広報を毎月、交互に送付している。運営推進委員会などで外部の方にも伝えている。	契約時に苦情や相談の受付体制や第三者委員、処理手続きなどについて家族に説明している。面会時や電話、運営推進会議時に家族の意見や要望などを聞いている。2ヶ月に1回、事業所だよりで行事の時の利用者の様子を写真で伝えたり、利用者を担当している職員による手書きの手紙を送付している。面会できない時は、家族にこまめに電話して、利用者の近況を伝えたり、本人の声を聞いてもらうなどして、家族からの意見が出しやすいよう工夫している。ケアに関する意見や要望は「介護支援経過記録」に記載し、職員間で共有してその都度対応している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者・主任は職員に自己評価を毎月提出してもらい 悩み ストレス 要望など記入してもらい 出来る事はすぐに改善している。代表者や管理者は職員と積極的にコミュニケーションをとり働きやすい環境になるように努めている。	月1回の職員会議や朝の申し送り、月1回の管理者との面談などで、職員の意見や要望を聞く機会を設けている。管理者は、話しやすい環境をつくり、日常業務の中でも聞いている。職員は、年度目標と月毎の目標を作成し、意見交換をしている。毎月、職員の悩みやストレス、要望などを記入した自己評価を提出してもらい、改善に努めている。職員の意見から感染予防対策として、非接触型体温計や空気清浄機、加湿器などの購入、休憩室のパーテーションの設置、食事場所の分離など、運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は現場に出向き、職員一人一人の意見や勤務状態などを把握できるように努めている。様々な研修に参加など、やりがいを持てるように努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月ミーティングでテーマを決めて研修を行っている。外部の研修がある時は職員に伝え、職員の希望や段階に応じて参加の機会を提供している。管理者や主任は一緒に介護に携わり その場で指導し技術向上に努めている。	外部研修は、職員に情報を伝え、職員の希望や段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供しており、この一年は実践者研修に1名が参加している。受講後は研修報告書を提出し、職員会議で報告している。内部研修は、拠点施設合同で年間計画を立て、月1回職員会議時に職員が講師となって、事故発生時(転倒)の対応、認知症高齢者の理解、介護目標、ストレス、環境整備、認知症対応技術、コミュニケーション、レクリエーション、感染症、身体拘束・虐待防止などについて実施し、参加者はレポートを提出している。新人は法人での5日間の研修の後、日々の実践の中で先輩職員が指導している。資格取得のための支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は同業者との交流、地域の会議、介護支援専門員連絡会議等に参加し、サービスを向上させる取り組みをしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に利用者様と面談を行う。利用開始されてからは、ご本人様が不安や思いをお聴きし職員全員で話し合い 信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前には必ず 施設を案内し 一日のスケジュール その他の対応 理念など説明し、納得して頂いている 不安な点や 要望もできる限り対応できるように 説明をわかりやすく行っている		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最初の面談のとき、困っている事や不安に思っている事等を傾聴し、どのサービスが必要か見極めるようにしている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の話等、いろいろな会話をして行く中で、色んな知恵等を教えていただく事がある。利用者様と散歩に出かけたり、一緒に体操をするなどして良い関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会制限がある為に 毎月、手紙と広報を交互に送付し、生活の様子を報告している。三密を避けて 面会して頂ける機会を設けている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所や 職歴 趣味など毎日個別にゆっくりと傾聴し 楽しく過ごして頂けるようにプランを実践している	家族の面会や親戚の人、知人、近所の人 の来訪がある他、年賀状や電話、本人の携帯 電話などでの交流を支援している。現在は感 染防止のため、人数制限をして面会を実施し ている。近くのパン屋への買い物、きらら交流 館、コスモスの花見の散歩、竜王山での花見 など馴染みの場所、懐かしい場所に出かけて いる。家族の協力を得ての葬儀への出席な ど、馴染みの人や場所との関係が途切れない よう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	家をイメージさせる家庭的な雰囲気や穏や かに過ごせるようにしている。フロアーや利 用者様と職員がゆったりと楽しく過ごしてい る。体操等のレクリエーションを行い楽しんで いただけるように努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等で利用が終了しても、ご家族が 不安に思っている事等、相談に乗り助言をし ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	常に本人の思いを尊重し、出来る限り希望 に沿った生活を送っていただけるように努め ている。日々職員と話し合い 思いを把握で きるようにしている	利用申し込み時に家族から生活歴やADLな どの基本情報を聞いて、アセスメントシートに 記入している。利用者を担当している職員 が日々関わりの中で、本人の表情や言動など を介護記録に記入し、月1回の職員会議後の ケア会議で話し合っ、思いや意向を把握し ている。意思表示が困難な場合は、本人の生 活歴や嗜好、趣味、家族からの意見を参考 に、職員間で本人本意で検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	ご本人様との会話や御家族・サービス担当 者等から生活歴や馴染みの暮らし方等の情 報収集を行っている。御家族が来苑された 時には近況を報告し、習慣や今までの生活 等を聞いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当職員を決めて、会議や日々一人一人の心身状況や 残存機能など話し合い 個別にプランを立てて 毎日実践している		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様が快適にサービスを利用できるように心身の状態・環境・希望等のニーズが変化していないか担当者がモニタリングしている。ニーズが充足してない場合は御家族や職員全体で検討し、計画を見直し作成しなおしている。	計画作成担当者と利用者を担当している職員を中心に、毎月1回ケアカンファレンスを開催し、利用者や家族の思いや要望、主治医、全職員の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。利用者を担当している職員が毎月、月目標をたて、マイライフプラン月別評価表でモニタリングを実施し、見直しを行っている。ケアプラン作成時に家族の意見を聞いている。利用者の状態に変化が生じた場合は、その都度見直しをして現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	統一された介護計画を実行する為に、利用者様の変化や気づきをケア記録に記入し申し送り簿に記録し情報共有をしている。計画の見直しが必要な場合には職員全体で検討している。変更後も申し送り簿等に記入し職員全員が分かるように徹底している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様一人一人に対する柔軟な対応、医療ニーズの高い方の受診、入院された時のお見舞い・洗濯、御家族への情報共有等、安心していただけるような支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方との交流の機会が持てない中 近隣のパン屋さん ガラス工房 交流館など 感染予防し気分転換して頂いている		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回、法人内医院の訪問診療がある。他の医療機関への受診を受ける場合は御家族に連絡し了承を得ている。受診の時は看護師か職員が同行し、結果は ご家族に連絡対応は職員全員で把握している	利用者や家族の同意と納得を得て、事業所の協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を受けている。必要時に歯科の往診があり、他科の受診は受診前後に家族に電話連絡をして、事業所が受診の支援をしている。結果は申し送り簿とバイタル表に記録し、職員間で情報を共有している。緊急時や夜間は法人内の看護師や医療機関と連携して、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	急変時 特変時など看護師や主任などの指示を仰ぎ どのように対応したらよいかを日々話し合い実践できるように努めている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療法人なので医師が常に医療連携している。病院の担当看護師 担当医師 ケースワーカーの方々と入院時に情報提供し、常に家族と相談し 連絡を取り合い退院に向けての調整を図っている		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族や主治医とこまめに相談して、家族の思いを尊重し、これからの方針を話し合っている。ご本人の身体状況を頻回にお伝えしている。職員間でも情報共有しご本人の思いに寄り添えるケアを行っている。	契約時に「利用者の重度化及び介護に関する指針」を基に家族に説明し、同意を得ている。実際に重度化した場合には、早い段階から家族や主治医、関係者と話し合っ方針を決めて共有して支援している。看取りの事例がある場合には、職員会議で話し合い、個別対応の研修を行って、本人や家族の意向に沿った支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事例が発生した場合はその都度インシデントレポートを記入し、職員全員で対応策を考え再発防止に努めている。ミーティングでAEDの使用方法や救命救急の研修を行って看護師が不在の場合でも敏速に対応できるように努めている	事例が生じた場合はその都度、インシデントレポートに発生経過、対応、再発防止策を記録し、職員に回覧して共有している。月1回の職員会議で再度検討し、事故防止に取り組んでいる。内部研修で事故発生時(転倒)の対応、応急処置、感染症、AEDの使用法などについて学び、応急手当や初期対応の実践力を身につけている。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、火災や水害を想定した避難訓練を実施しており、去年は地域の方にも参加していただいたが本年は参加できなかった。職員と一部の地域の方とで緊急連絡網は作成して 災害時 敏速に救助できるよう組織化している 夜勤者同士で夜間の緊急発生時のマニュアルを確認している。外部からの侵入や離脱防止の為、セコムを設置している。 運営推進委員会でも防災について話し合いを行っている	年2回、拠点合同で夜間の火災や高潮を想定した、通報訓練、避難訓練、消火訓練、避難経路の確認を利用者も参加して実施している。感染防止のため、この1年は、消防署や地域住民の参加は得ていないが、運営推進会議のメンバーには防災マニュアルについて電話で意見を聞いている。防災マニュアルを事業所内に掲示し、夜勤者は毎日それを読んで、災害時の対応について確認している。自治会長が緊急連絡網に加入し、事業所も自治会の夜間救急連絡網に入って、組織的な地域との協力体制を築いている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけをする時は利用者様と目線を合わせ、ご本人の思いに寄り添えるように対応している。丁寧な言葉かけを行い、トイレやオムツ交換・入浴の時居室の入る時等、プライバシーに配慮している。	職員は内部研修(接遇)で学び、人格の尊重とプライバシーの確保について理解し、利用者の自尊心を傷つけず、プライバシーを損ねない声かけや対応に取り組んでいる。コロナ禍で、マスク越しでも笑顔が伝わるようなアイコンタクトで利用者に接し、事業所内では標準語で丁寧な言葉づかいをするようにしている。日々の関わりの中で気になるところがあれば管理者が指導し、職員の意識の向上に努めている。個人情報の取扱いに留意し、守秘義務を順守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様1人1人に合った言葉かけや動作を交えて自己決定をできるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間・入床時間、食事や入浴等、ご自分のペースで生活していただけるよう支援している。散歩など希望される方は 個別に対応している		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には整髪・洗顔・顔拭きをおこなっている。出来る方はご自分でされている。衣類が汚れた時はこまめに更衣していただき丁寧に選択している		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は常食・ゼリー食等、一人一人に合った食事形態で提供している。週に一度はぜんざい・焼き芋・ゼリー・プリンなど手作りおやつを楽しんでいただいている 食後は茶わん洗い トレー拭きを手伝ってくださる。	三食とも法人の厨房からの配食を利用し、炊飯は事業所で行っている。朝食は利用者一人ひとりの希望に合わせた時間に提供している。利用者は盛付けや配膳車(保温庫)運び、トレイ拭き、台拭き、下膳、食器洗いなど、できることを職員と一緒にしている。季節の行事食(おせち、ひな祭り、スイカ割り、クリスマス会等)や2週間に1回のおやつづくり(水ようかん、ぜんざい、焼き芋、ゼリー、プリン、ホットケーキ等)で利用者は芋や栗の皮むき、つぶす、団子を丸めるなどを行っている。フルーツバイキング、2か月に一度の拠点喫茶(多種のメニュー表から選べる飲み物、ケーキ、クッキー等)など、食べることが楽しみとなるよう工夫して支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は栄養士が栄養バランスを考えて作成している。利用者様一人一人に合った食事を提供している。おやつや水分も好みの物を提供している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを行い口腔内を清潔にしている。歯ブラシ・スポンジブラシ等、一人一人に合った物を使用している。 口腔内に異常がある時は訪問歯科にて治療したり口腔ケアの方法等指導を受けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄を記録している。排泄パターンを把握し、歩行できない方でもトイレ誘導を行い自然排泄を促している。	バイタルチェック表を活用してパターンを把握し、時間を見図りながら、プライバシーに配慮した声かけや誘導をして、トイレでの排泄や、排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分を摂取していただけるよう声掛けを行っている。 体操や散歩等で体を動かしていただき、便秘にならないよう努めている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	各ユニットに浴槽があり、いつでも入浴できるようになっている。 2人に対応・シャワー浴等、利用者様の状態に合った支援をしている。 拒否のある利用者様には、時間や日にちをずらしたり、声のかけ方を工夫している。	入浴は、朝4時過ぎに起床して朝食をとる利用者のために入浴時間を早め、毎日8時30分から10時までとし、状況によっては午後でも、ゆっくりと入浴を楽しめるよう支援している。ゆず湯や入浴剤を使う「入浴週間」を設けて、変化を楽しめるよう支援している。利用者の状態によって、職員2人対応、併設施設の特浴利用、シャワー浴、清拭、足浴など、個々に応じた支援を行っている。入浴したくない人には、タイミングを見て時間をずらす、職員を交代する、ことばかけの工夫をするなど、工夫して支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣に合わせて、ゆっくりと休養が取れるようにフロアーには椅子やソファ、居室にはベッドを設置している。 入眠の際も静かで安眠できる環境を作れるように努めている。寝具の清潔保持にも努めている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人が服用している薬を把握し、作用・副作用等を理解できるように努めている。 薬の変更があった時は、状態に変化がないか様子の観察をしている。また誤薬の無いようにマニュアルを作成している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日午前・午後2回、各ユニットに集まって合同でレクリエーションを行っている。また定期的に喫茶を行ったり、花見・クリスマス会・節分・すいかわり・フルーツバイキングなどなど 密集する行事が出来ない中 工夫しレクリエーションを楽しんでいただいている	ユニット毎のレクリエーション委員を中心に行事の企画をし、レクカレンダーをつくっている。誕生会、節分、七夕飾り、母の日喫茶、父の日喫茶、スイカ割、敬老会、クリスマス会、ディサービスとの合同作品展と喫茶、おやつづくり、ボランティアとの交流、2ユニット合同のレクリエーション、カラオケ、生け花、テレビやDVDの視聴、ぬり絵、貼り絵、折り紙、季節の壁飾りづくり、手工芸、カルタ取り、トランプ、絵合わせカード、歌を歌う、ラジオ体操、リハビリ体操、風船バレー、脳トレ(計算ドリル、パズル)、食事の支度や片付け、洗濯物干し、洗濯物たたみ、シーツや枕カバーの交換、カーテンを開ける、掃除機をかけるなど、利用者一人ひとりの楽しみごとや活躍できる場面づくりの支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩行が困難な利用者様でも車椅子を使用し苑外に散歩したり、季節を感じていただけるように花見や季節の花を鑑賞しにドライブに出掛けている。健康な方はきららビーチまでウォーキングされ個別対応している	事業所周辺(本山駅、ガラス館、花壇等)の散歩、季節の花見(桜、コスモス)、ドライブ(竜王山、塚の川古墳、きららビーチ)、近隣のパン屋での買い物、お散歩週間のきららビーチ散歩、家族の協力を得ての葬儀への参加など、日常的に外出できるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が困難な利用者様が多くおられるが、一緒に買い物に出かけたときは、ご自分でお支払いしていただけるように支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様は施設内の電話を自由に使用できるようになっている。個人で携帯電話を持たれ、家族や友人と連絡をとる利用者様もおられる。 年賀状や手紙は出来るだけ、ご自分で書いていただけるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	道路側の窓からは青い海を眺めることができ、温度・湿度・証明の明るさ等に配慮し、明るい雰囲気ので心地よく過ごせるように工夫している。エレベーターホールには利用者様に生け花を活けて頂き 季節感を楽しめるように努めている	二階の階段フロアには手づくりのなみおと神社の鳥居と賽銭箱があり、利用者が気軽にお参りできる。各ユニット入口には、月行事の案内板を置いている。リビングは広々として明るく、南側の一面のガラス窓からは青い海を眺めることができる。白を基調とした壁面を背景に、ソファ、食卓、イスを配置しており、テレビや畳のあるコーナーなど、利用者が思い思いにくつろぐことができる。対面式のキッチンからは、食事の準備の音やお茶を入れる香りが漂い、家庭的で生活感あふれる空間となっている。温度、湿度、換気、清潔(消毒)、安全に配慮して居心地よく過ごせるよう工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには椅子・ソファ・テーブル等を設置しており、ゆっくり過ごせるようにしている。またホールには きららビーチが一望できるウッドデッキがあり 天気の良い日には日光浴を楽しんでいただいている		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にタンス・テレビ・カーテン等、本人 家族の好みに合ったものをお願いし、利用者様が快適に過ごせる環境づくりをしている。また毎日 掃除機 モップかけをし ベットメイキングは都度いつだれが入室されても快適なように整頓している	寝具や整理タンス、衣装ケース、机、イス、ソファ、テレビ、CDプレーヤー、自動演奏のエレクトーン、本、ぬいぐるみ、置時計、鏡、化粧品等の日用品など、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、誕生日の写真や家族の写真、誕生日カード、家族の作ったパッチワークのタペストリー、カレンダー、自分の手芸作品、ドライフラワーなどを飾っている。各居室に事業所で撮った思い出のアルバムを置いて、思い思いに楽しめるようにするなど、本人が居心地良く過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・フロア・浴室・トイレに手すりを設置している。居室の入り口には季節を感じていただけるような表札や飾り物を設置している。 自由に安全に移動が出来るようにフロア内の整理整頓を心掛けている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームなみおと

作成日: 令和 2 年 12 月 20 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1		利用者の重度化が著明(食事摂取量 排泄困難 認知症状が急速に進行 歩行状態の変化 座位状態)。どうすればその方々が安心して楽しく過ごせるようになるか？	たとえ重度化しても、利用者様一人一人がその人らしく健康で安心して楽しく過ごせるようになる。	その方に合ったプランを職員全員で細かく日々話し合い、統一したケアをする(苦痛のないように 安心できるように)。日に日に状態が変わっていくために、敏速に対応できるように、観察力行動力を身につける	10ヶ月
2		職員が利用者と親しくなり、言葉遣いが慣れ合い言葉になっている(家族のような言葉遣い)また、職員間においても、勤務中に友達言葉で声を掛け合っている職員が多い	利用者に対して、どのような場面でも優しく、マスク着用時でも笑顔を絶やさず、丁寧、綺麗な言葉遣いになる 職員間でも勤務中は接客業種と同様、方言言葉は使わず、ありがとうございます、お疲れ様ですなど丁寧な言葉遣いになる	接遇研修を行ない、接客業種と同様、言葉遣い、マスク着用時の笑顔の作り方研修、職員同士の声かけなど、常に礼儀正しく明るく振舞えるように職員間で注意し合う	10ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。